

はじめに

情報メディアセンター所長 松井 吉光

情報メディアセンター紀要COMの第40号をお届けいたします。寄稿していただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、より多くの方々にお読みいただけることを希望いたします。

前回の第39号に引き続き、今回も寄稿の申し込みの少ない号となってしまいました。当初の原稿締め切りの段階では1本しか申し込みがなく、COMの第40号が発行できるのかという危機的な状況になってしまいました。幸いにも再募集をかけたところ、4本の原稿が集まったため何とか発行に漕ぎ着けることができました。第39号と第40号、2号続けてこのように寄稿の申し込みが少ないとなると、今後の存続すら危うくなるのではと危惧しています。

さて、ここでは2014年度の当初、新入生向けのコンピュータ利用説明をしていて驚かされたことについて述べたいと思います。それは何かというと、初期パスワードを入力させる際、何人かの学生がキーボードでアルファベットの大文字を入力する方法がわからないという事態に遭遇したことでした。愛知大学に就任してから5年になりますが、これまでこのような質問を受けたことがありませんでした。もちろん、これまで情報リテラシー教育に携わってきた中では、キーボードの入力の仕方についての質問は何度も遭遇しましたが、それは愛知大学に比べて学生の学力レベルがずっと劣っている場合であったり、一般向けの特に高齢者向けのパソコン講習会をしていた時であったりでした。これだけICT機器が行き渡り、高校の中でも情報教育がなされているはずで、学生の学力レベルは決して低くないはずなのになぜ、と驚いたわけです。

その疑問が氷解したのは、ほとんどの学生がスマートフォンを使っているのを見たのがきっかけでした。そうか、キーボードで大文字を打つ方法を知らない学生も、スマートフォンを使いこなしているのではないかと。皆さんもご存じの通り、スマートフォンでの入力で大文字を打つ方法はいろいろありますが、シフトキーと押しながらアルファベットのキーを打つということはまずないわけです。きっとキーボードで大文字を入力できなかった学生もスマートフォンなら支障なく入力することができるのでないかと。

この出来事に注目したのは、ここ数年で学生のICT環境が、携帯電話+パソコンか

らスマートフォンに一気に推移していたことを象徴しているかのように感じたからです。学生達は分からないことがあったらすぐ、スマートフォンで検索して調べようです。講義室で行われる講義であれば何も違和感はないのですが、コンピュータ室で行われる演習であって目の前にパソコンがあっても、同じようにスマートフォンを取り出して検索し始めるのを見ると私にとってはとてもついていけないと感じさせられます。ただそう感じるのは私のようなパソコン世代の人間であって、分からないことがあったらスマートフォンで検索して調べるということが実は当たり前のことになってきているということなのかも知れません。

今年度、名古屋校舎ではメディアゾーンなどの学生が集まるスペースでWi-Fiにつながりにくいという事態が発生しました。また、Wi-Fi接続に当てているDHCPのIPアドレスのプールが枯渇するという事態が発生しました。この2つの事態の原因は何かというと、そう、学生のスマートフォンによるWi-Fi接続が一気に増加したことによります。スマートフォンを提供している各社は、自社の携帯ネットワーク網の保護のため、一定量以上の通信には速度制限をかけるようになってきました。このことが大学内でのWi-Fi接続の増加に拍車をかけています。この流れはここしばらくは変わりそうにないので、Wi-Fiのアクセスポイントを増やすなどして支障が出ないように対応していくしかないようです。

最後になりましたが、このたびメディアセンター所長をお引き受けさせていただくことになりました。愛知大学に就任して間もないのでまだまだわからないことばかりですが、ICT委員会の皆さんと事務スタッフの皆さんの協力を得ながら任務を果たしていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。